

まち歴の記録

No.04

配信日：2026/05/20

最終更新日：2026/05/20

編集発行：町田市立自由民権資料館

問合せ：

〒195-0063 東京都町田市野津田町 897

TEL 042-734-4508 FAX 042-734-4546

江戸時代の領民と旗本領主の関係を知る 2つの講座

2025 年度企画関連講座を開催いたしました

当館では、2025 年度の企画展「町田とお殿さま―江戸時代の領民と領主―」にあわせ、「領民と領主の関係」を学ぶ 2 つの関連講座を開催しました。今回の「まち歴の記録」では、当館学芸員小林が、2025 年度「まち歴」第 3 回の講演内容をまとめたものを掲載いたします。



2025 年度 まちだ歴史講座「まち歴」

開催日：2025/10/25

第 3 回

旗本知行割にともなう分郷と村びと

小林 風

町田市立自由民権資料館学芸員

徳川家康が関東に入部し、江戸に幕府を開いた 17 世紀初めの町田市域は、多くが幕府領でした。その後、蔵米取の旗本に知行所を与えた寛永・元禄の地方直しを経て、市域の多くの村は旗本の知行所となります。

さらに、他の関東地方の村むら同様、ひとつの村が複数の旗本の知行所となったことによって、村は分郷されることになりました(相給村)。こうした分郷という状態が、これまでひとつの村として生活していた村びとの暮らしや村落共同体の意識にどのような変化をもたらしたのか、武蔵国多摩郡野津田村を事例に考えます。

17 世紀から 18 世紀初めの野津田村は、幕府領から旗本領、再び幕府領と複数回支配領主が変わります。しかし分郷はされなかったため、その間に村落共同体としての慣行がしっかり形成されていったと考えられます。

それが、享保 6 (1721) 年 4 月に野津田村の一部(村高 823 石余の内、490 石余)が旗本富田家の知行所となりました。それにともない、村では 12 か条の村議定を取り極めています【表】。この村議定では、くじ引きによる分郷の方法や道路・橋・用水路などの村内インフラ施設の維持管理を、従来通り一村として負担していくこ

とを確認しています。

つまり、この村議定は支配が異なっても、村落における生活・生産に関係する事案は、従来通り村びととしての義務・負担が生じることを示しています。

さらに、同年 6 月残りの幕府領の一部が旗本山口家領となる際にも、山口家の領民とな

【表】享保6年4月24日 野津田村内取極め（現代語訳）

No.	内 容
1	知行割りをくじ引きにて決定。過不足分は相談・くじ引きで決定
2	昨年 の 小物成未納分について、分郷になっても一村割りにて納入
3	昨年暮れに割り付けた村入用や分郷に際してかかった諸経費は一村割りにて負担
4	以後の幕府領が他の知行所になる場合も、諸経費は一村割りにて負担
5	鷹場関係の負担も、従来通り一村単位で負担
6	防水施設や道路・橋などのインフラの整備・管理も、従来通り一村単位で負担
7	新郷蔵建設費用の一村割り負担
8	新制札場設置費用の一村割り負担
9	真綿納入も従来通り高割負担
10	名主・年寄料としての引き高も継続
11	定使への給与も従来通り（高 1 石に付、米 4 合 5 勺）
12	名主を務めるのは清太夫（継続/幕府領）と久米右衛門（富田家領）

〔出典〕野津田町河井家文書18-33

る村びとは、先の村議定に類似した取極めに同意を求められています。

野津田村の場合、段階的に知行割が実施された結果、知行高の不足分を補うため、知行割の細分化がなされるとともに、複数の領主から重複して支配を受けることになった村びとも多数存在しました。その結果、分郷によって支配構造が複雑化することにもなりました。

野津田村では、村役人層が分郷後も従来までの村落共同体を維持しようと配慮する史料が散見されますが、その背景には村落構造に要因があったと考えられます。

野津田村は、村の中央を東西に流れる鶴見川をはさんで形成されているため、村びとの村内の行き来も容易ではなかったことが想定されます。また用水路が複数存在し、それぞれの集落で利用する用水が異なるため、用水路の維持管理に対する意識も、集落ごとの差異が生じやすい条件下にあったと思われます。そのため、村としての意見集約を図る目的で、各集落の代表を組頭に選出していたと考えられます。実際に 18 世紀初めには、名主以下 13 名の組頭によって村落運営がおこなわれていました。

つまり、複数集落の集合体である野津田村では、村びとの村落共同体意識をより醸成する必要があり、約 1 世紀にわたりそのための努力がなされてきました。しかし、村役人たちは、これまで培ってきた村落共同体意識が分郷によって希薄化することへの懸念を抱いた結果が史料となり、残ったのではないかと考えられます。

【開催データ】

会 場：町田市立国際版画美術館 講堂 参加者数： 50 名

ご参加ありがとうございました。